

# ライフケアガーデン熱川 別館

症例概要 利用者：80代 女性 要介護2

病名：認知症

韓国出身。日本と韓国双方の永住権を持っている。60年程前に日本人の夫と結婚し4人の子供を設けるもその後離婚。元夫は3年前に逝去している。長年A県にて生活していた。

2024年より認知症状が出現し次男が経営する会社の2階で生活するも、一人で外出し交通ルールを守れず警察に保護されることが多々あった。

これ以上の在宅生活は難しいと判断した家族が紹介会社を通して相談し2025年10月入居となるも、食堂の床に座り込み鞆内のものを並べる、リハビリ器具にしがみついで奇声を発する、声掛けした職員を突き飛ばすなどの異常行動がみられていた。部署を越えてご入居者の尊厳を大切にしたい関わりを継続した結果、状態が改善し笑顔がみられるようになった事例。

## 内 容

入居当初より小さな子供が見えるような言動や食堂への座り込み、入浴の声掛けをした職員を突き飛ばすなどの拒否行動がみられた。ご家族は苦勞して自分たちを育ててくれた母親に安心できる場所で穏やかに暮らしてほしいという強い思いを抱いていたが、それも実現できるか分からない状態であった。

ご家族の想いを受けて職員は氏の尊厳を尊重し、行動の背景にある不安や混乱に着目した。警察保護や住環境の急激な変化など、安心できる基盤が揺らいでいたことが影響していると仮説を立て、時間を問わず丁寧に話を伺い共感を重ねる対応を根気強く行った。また、居室には写真や馴染みの物品を見やすく配置し、安らぎある環境を整えた。

看護職員は精神状態と体調の変化を継続的に観察し医療機関と連携して服薬調整を行い、介護職員は比較的落ち着いている時間帯に入浴を案内するなど、手を取りながら安心できる声掛けを続けた。同時に事務・営業職員はご家族と密に連絡をとり、氏の情報を共有することで安心していただけるよう努めた。

その結果、異常行動や突発的行動は徐々に減少し、穏やかな表情で日々を過ごされるようになった。現在は職員の声掛けに笑顔で応じ、季節のレクリエーションを楽しまれている。氏の状態改善にご家族からは安心と感謝の言葉をいただいた。

多職種がご入居者の尊厳を大切にしたい関わりを継続した結果、状態改善し笑顔がみられるようになった本事例を、キラキラ介護賞として推薦する。

**【多職種の関わり】**

**【看護】** 入居当初より精神状態と体調の変化を継続的に観察し、行動の出現状況を把握。医療機関と連携しながら服薬管理を行い、睡眠や水分摂取にも配慮して心身の安定を図った。

**【介護】** 行動を制止するのではなく、不安に寄り添う対応を行った。異常行動にも共感的に関わり、穏やかな声掛けを続けることで職員との信頼関係構築に努めた。

**【施設管理】** 持参された写真や物品を整え、安心して過ごせる居室環境を整備した。共有スペースの刺激を調整し、安全に生活できる環境維持に努めた。

**【食養】** 精神状態や生活リズムに配慮し食事を提供した。摂取量や嗜好を共有しながら無理のない支援を行い、体調の安定を支えた。

**【事務・営業】** ご家族と密に連絡を取り、ご入居者の状態を丁寧に共有した。情報整理を行い、多職種が円滑に支援できる体制を整えた。